

指定管理者評価シート			
事業名	老人福祉センター運営管理費	所管課(電話番号)	保健福祉局高齢保健福祉部高齢福祉課(211-2976)

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市手稲老人福祉センター	所在地	手稲区曙2条1丁目
開設時期	平成3年4月	延床面積	1,293㎡
目的	高齢者に対する福祉の増進		
事業概要	高齢者に対する生活相談、健康相談、機能回復訓練及びレクリエーションの実施、職能訓練及び就職の指導、浴室その他の施設を高齢者の使用に供すること。		
主要施設	大広間、職能訓練室、機能回復訓練室、浴室、娯楽室		
2 指定管理者			
名称	労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団		
指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日		
募集方法	公募		
指定単位	施設数:1		
	複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	施設管理業務、生活相談等業務、健康増進業務、教養講座業務、レクリエーション業務		
3 評価単位	施設数:1		
	複数施設を一括評価の場合、その理由:		

II 令和6年度管理業務等の検証

項 目	実施状況	指定管理者 の自己評価	所管局の評価
1 業務の要求水準達成度			
(1) 統括管理 業務	▽ 管理運営に係る基本方針の策定 ▼手稲老人福祉センターの設置された目的と目指す効果を達成するため今年度は、以下の基本方針の策定をした。 ①人の命と暮らし、人間らしい労働を最高の価値とします。 ②協同労働を通じて「よい仕事」を実現します。 ③働く人びと、市民が主人公となる「新しい事業体」をつくりまします。 ④すべての人びとが協同し、共に生きる「新しい福祉社会」を築きます。 ▼施設の設置目的である、「高齢者に対する福祉の増進を計る」ことを目指し、「いくつになっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまちづくり」を目標とし、社会参加、役割、意識の高揚を感じられ、地域社会で生かされていくように、きっかけづくりや活躍の場の提供に取り組む。	▼左記の方針に基づき地域に根付いた活動をするため、4つの項目を意識し”地域の中の利用者”の視点をもって管理運営を行うことができた。 ▼施設の設置目的を意識した、“利用者を主体者に”する活動を積極的に取り組めた。	A B C D ▼仕様書に沿って適切な管理運営を行っている。 ▼講座、レクリエーション、各種行事などで定員を設けている場合、利用者に抽選を公開するなど平等利用にかかる取組を実施している。
	▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績 ▼平等利用を確保する上で、組織として以下の方針で取り組みを行った。 ・誰一人取り残さない住民主体の地域づくりを行う。 ・障がいを抱えた困難な人々とも共に歩むことを目指す。 平等利用の基本的な考え方は、地方自治法第244条の第3項を順守し、具体的に以下の業務で、職員一同情報共有を基本に業務を行った。また、日々の業務の中で館長を中心に、平等利用の心構え、館内であった事例を話し合いながら平等利用の大切さを学びあった。	▼平等利用の基本的な考え方を積極的に学び、取り組み方針を策定し職員全員で共有した。 ▼定員の設けてある講座・レクリエーション・各種行事など抽選が必要になった場合は、公開のうえ利用者に利用抽選をしてもらって公平に実施することができた。	▼退職者が出て直ぐに補充をするなど、必要な職種・雇用形態で適正な人員を配置するよう努めている。

	▼生活相談業務 専門家相談事業は、参加を希望する方はどなたでも公平に申し込みが出来るよう、月刊の広報誌「あけぼの」を紙媒体での提供、公式LINE登録者には、ホームページにリンクを貼ったお知らせ、館内掲示板での募集ポスターを掲示などどなたでも情報を得やすいように工夫をしている。 また、事務室の扉を常時開放しており、いつでも気軽に相談や話をしやすい環境＝よろず相談窓口として機能できるよう意識している。 提携医療機関の医師・看護師・作業療法士・理学療法士・言語聴覚士・栄養士など多くの方が日々来館しているため、利用者が事業を通じて顔見知りにもなっており、気軽に相談できるように配慮している ▼健康増進業務 教養講座業務 健康増進業務では、高齢者の基礎体力の維持や向上を目的とし、各種プログラム開発を行っているが、「体力が高い・普通・低い」の3種類の体力差に注力したプログラムを行っており、健康増進を図りたい利用者には誰でも必ず参加できるプログラムを開発し提供している。 また、教養講座業務においては、老人福祉センターを利用したことがない人を利用に呼び込むきっかけとして事業と位置づけ、毎年同じ利用者で固定しないよう同じ講座への申し込みは不可・初心者を優先とするなど、新たに参加したい方にも申しやすくてできるよう配慮している。 ▼レクリエーション業務 季節行事や地域の関係機関との共催行事など、観て楽しめる(映画会・音楽会・サークル発表会・保育園神輿・太鼓演奏会・作品展示会)、参加して楽しめる(遠足・秋まつり・お茶のみサロン・医療的ケア児交流フラダンス)、ボランティア活動を通じての交流(ごみ拾い・花壇整備・ボランティアの日)、学びを通しての交流(カルチャーナイト・ていね夏あかり)など、様々な利用者に適応した多彩なプログラムを常に用意し、それぞれ自分の好きなこと・活躍できる場を提供できるよう配慮している。 ▼ロビー・掲示板 限られたスペースで最大限の情報を提供するため、「大きさ形状が同じ」「綺麗で見やすい」の掲示を行った。 「講座や行事の募集」「サークル仲間募集」「センターからのお知らせや市から広報」など同種の情報が一目で分かりやすく、多くの情報を広く利用者に周知できるように提供した。	▼常に気軽に声掛けにより、利用者との良好な関係を保っている。利用者全てに平等に情報がいきわたるよう配慮することができた。 ▼各種講座や行事レクリエーションなどへの参加の機会を公平に平等に行えるよう配慮することができた。 ▼今まで利用したことがない新規利用希望者には、どの時期からでも様々な活動に参加できることを説明をして、常連の利用者だけに利用させている施設ではないことを説明し、平等利用の方針を理解してもらっている。 ▼月間の広報誌「あけぼの」は、限られたスペースに多くの情報を掲載するのでどうしても文字が小さくなり、目の悪い高齢者は少し見にくくなる。そのため掲示板やチラシを利用して、募集している講座や行事のお知らせを常に掲示・配架し、利用者が公平に情報が得られるように配慮した。
▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進	▼札幌市環境マネジメントシステム(EMS)を理解し、地球温暖化対策および環境配慮をし、職員全員で意識を共有した。 ▼EMSで示される、PDCAサイクルを意識し、継続的な改善を意識しながらの取り組みを職員全員で共有した。 ▼照明や冷暖房のこまめな切り替え及びLED照明への切り替えにより電気の消費量を大幅に減少・ボイラー運転時間を必要最低限まで短縮してガスの使用量をコントロールすることで、CO2排出量削減に取り組んだ。 ▼風呂掃除で使用される洗剤は、使用量が多いため環境負荷の少ない道内企業の手作り粉石鹸を使用した。 ▼刈草を廃棄せず、堆肥として活用し花壇や畑づくりに使用した。 ▼センター2階和室の南向きの窓にグリーンカーテン(ゴーヤ)を栽培して、直射日光を防ぐことで冷房の使用頻度を削減・地球温暖化に配慮した。	▼EMSを学ぶとともに、環境負荷となることは、センターの運営ではなるべく排除していくよう職員全体で学びながら共有している。 ▼古紙回収ボックスを配置して古紙段ボール等の資源を有効活用し、地域住民にも利用が定着してきた。 ▼エネルギー削減に意識付けを、毎月の会議の中で必ず話し合い削減のための方策を話し合う機会を設けている。

▼センター敷地内の土のある部分は全て、花・野菜・樹木などを整備して夏季の温度上昇を抑えていくとともに、利用者の憩いのスペースとして見学開放も行っている。2階にも3か所のグリーン花壇で、ラベンダーや多年草を植えて、センター内の温度上昇を抑える工夫もしている。

▼廃棄物排出抑制に向け、書類の電子化や共有化により紙媒体での使用を削減する努力を行った。またミスコピー紙を使い資源の徹底した利用を行った。

▼新聞・段ボール・雑誌・雑紙・シュレッター等の資源回収に努め「事業系廃棄物減量計画書・処理実績報告書」を札幌市に報告した。

▼冬季「ウォームビズ」を兼ねた運動事業や行事を実施し厳冬期にセンター内で過ごすことで「利用者個人宅のエネルギー削減」にも取り組んだ。

▼環境に関する研修も内部研修を行い職員で認識を再確認した。(SDGsについての勉強会)

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

▼令和6年度の組織・人員配置

職種	配置部署	職務	雇用形態	人数
館長	事務室	事務・統括	常勤	1
副館長	事務室	事務・経理 講座・行事	常勤	1
事務	事務室	事務・経理 講座・行事	常勤	2
事務	事務室	事務・経理 講座・行事	非常勤	3
清掃	全館	清掃・庭	非常勤	5
営繕	全館	営繕・庭	非常勤	1

▼人材育成・各種研修への参加

- ①4月 北海道社連カレッジ環境問題について考えてみよう！
 ②5月 介護予防センター&地域包括支援センター研修
 ③5月 全国リスクマネジメント研修
 ④6月 ELC協会のいのちの授業
 ⑤6月 家庭でできる防災対策
 ⑥6月 認知症・フレイル予防研修
 ⑦7月 法令順守PJ研修会 ハラスメント研修
 ⑧7月 個人情報保護研修
 ⑨7月 Mottoよい仕事委員会 バックオフィス部会学習会
 ⑩9月 接客マナー講習会
 ⑪9月 新入団組員研修①
 ⑫9月 法令順守管理者会議
 ⑬10月 手稲区西区社協合同会議
 ⑭11月 札幌市防火管理者協会救命講習会
 ⑮12月 総務経理研修 勤怠システム研修会
 ⑯1月 全国法令遵守管理者会議①
 ⑰2月 コンプライアンスとは・職業倫理研修
 ハラスメントとは・協同労働基礎研修
 e-ラーニングに全職員対象に研修
 ⑱2月 新入団組員研修②
 ⑲3月 障がい者雇用促進セミナー
 ⑳3月 全国法令遵守管理者会議②

▼エネルギー代高騰による利用者への配慮として、運動事業や行事などを冬場に増やして、センターへ出かける機会を増やし、利用者のエネルギー削減に努めた。

▼センター内の緑化に力を入れており、夏季の地表温度上昇を抑える取り組みを行った。また、グリーンカーテンの設置や2階でのグリーン花壇の設置など、夏季は緑に囲まれ、温暖化対策もしながら安らぎの持てるセンターにすることができた。

▼今年度も人員配置計画に従い、必要な職種・雇用形態で適正人員を配置できた。退職者も一部出たが、直ぐに補充をし、業務には支障がなかった。

▼センター内の樹木管理・敷地内の草刈り・冬季の玄関周り非常誘導路などの除雪について、修繕を行う人員を雇い入れることで、館の管理を一体的に行うことができた。

▼今年度も、現場、組織、札幌市及び関係機関で計画される多くの研修及び勉強会に参加することができた。

▼研修は、職種・職域・経験年数等を考慮して参加者を決定し、研修の受講する機会がなるべく多くなるように努めることができた。

▼今年度は、コンプライアンス、環境問題、リスクマネジメント、法令順守、個人情報保護などに組織として力を入れた研修に参加することができた。

▼新人研修は、毎年2回行い、組織の他現場の職員と一緒に研修を行い、組織理解やコンプライアンスについて学びがあり、有意義な研修を実施することができた。

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

▼職務による研修、経験年数による研修、義務付けられている研修以外にも、組織全体でコンプライアンス、ハラスメント、環境についての研修を年度計画で随時行っており、月1回の会議の中で参加者からの報告、具体的な活用や改善点などの話し合いを実施した。

▼毎日の朝礼・終礼、月1回の全職員での会議を実施。情報の共有化を徹底し、施設の維持管理・衛生管理・運営の問題点などを積極的に話し合った。

▼終礼時に日報を作成すると同時に、開館・閉館チェックリストを作成し管理水準の維持に役立てている。

▼利用者アンケート・各種話し合いの場を積極的に持ち、常に改善する意識での運営を心がけた。

▼職員が事務室内から出て利用者と日々積極的なコミュニケーションを行うことによる利用者の変化を敏感に感じることを心がけた。

▼日常的に利用者の心身の状態に留意し、利用者の体調不良を早期発見できるよう心がけた。

▼職員間の情報共有・共通認識等利用者に直接関係のある事項については、記録を残すとともに話し合いの中から問題点の認識や整理など多くの時間をかけて取り組んだ。

▼研修に参加をして学んだことを職員同士でフィードバックしながら、管理水準の維持向上に努めた。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

【令和6年度の第三者委託業務】

- ①機械警備 ②自家用電気工作物保守点検
③エレベーター保守点検 ④自動ドア保守点検
⑤ボイラー設備保守点検 ⑥消防設備保守点検
⑦建築基準法法定定期点検
⑧冬季降雪時除排雪

▼各委託先と緊急対応連絡網を整備し、土日进行間問わず緊急対応を行った。

▼仕様書・契約書に沿って報告書の提出を受け、作業が正確に履行されているか、館長を中心に確認を行った。

▼第三者への委託業務に関しては、仕様書に基づき、履行・管理・監督・報告の全ての業務が適切かつ適正に行われた。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回	・令和6年7月までの事業報告 ・実施行事 利用者の感想所感共有 ・下期の事業計画の予定 ・協議会メンバーからの感想 相談等
第2回	・令和6年事業報告 ・令和7年度事業計画方針説明 ・利用者の様子や館内の様子 ・協議会メンバーからの感想 相談等
<協議会メンバー> 札幌市手稲区保健支援係 係長 手稲区鉄北まちづくりセンター 所長 札幌市手稲区社会福祉協議会 事務局次長 手稲区第1地域包括支援センター センター長 札幌市手稲区介護予防センター 中央鉄北センター長 北海道科学大学 保健医療学部 看護学科 教授 イムス札幌内科リハビリテーション病院 理学療法士 地域連携担当 手稲老人福祉センター 利用者代表 2名 手稲老人福祉センター 館長・同副館長 オブザーバーとして札幌市保健福祉局高齢福祉課 札幌市役所高齢福祉課係長 札幌市役所高齢福祉課担当	

▼協議会メンバーには今年度も広く地域の関係機関から参加いただき、広い視野での意見交換によりセンターの運営に活かされた。

▼今年度は、協議会メンバーになっている関係機関からの事業への協力・参加をいただき事業を実施することができた。

▼当センターの運営に関わることだけではなく、協議会メンバーの困りごとなどで、当センターとの連携により解決できることが無いかなど、関係団体とより連携を深めることができた。

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

▼現金等の管理については、組織内で定められた現金取り扱い規定により徹底管理を実施しており、事故、不祥事を未然に防ぐ仕組みが組織内で構築されている。さらに現金の確認においては、複数人でのチェックすることで徹底管理をした。

▼日々取り扱う入金・出金については、館長、経理担当者、さらにもう1名の押印で伝票作成、記載漏れや間違いがないか確認をした。

▼指定管理業務に関わる収支については、独立した帳簿及び預金口座で、利用料収入・その他経費をそれぞれ管理している。

▼労働者協同組合本部経理部員による内部監査、及び公認会計士による外部監査を実施。あわせて労働者協同組合北海道本部及び東京本部の経理部員による研修・指導を実施している。

▼指定管理業務に関わる収支については、独立した帳簿及び預金口座で、利用料収入・その他経費をそれぞれ管理している。

▼労働者協同組合本部経理部員による内部監査、及び公認会計士による外部監査を実施。あわせて労働者協同組合北海道本部及び東京本部の経理部員による研修・指導を実施している。

▼労働者協同組合ワーカーズコープ東京本部の監査・指導に加え、北海道事業本部内でも公共施設の指定管理者の経理研修等を定期的に実施し、団体で統一した処理方法に則り適切に実施をした。

▽ 要望・苦情対応

▼要望・苦情については、窓口、市役所や区役所に直接電話、ご意見箱などに寄せられることが多いので、迅速で適切な対応を心がけており職員全員での情報共有も行っている。また内容により札幌市の関係部局への報告、関係機関への報告相談も合わせて行っている。

▼事務室の入口を常に開けて誰でも直ぐに立ち寄れるよう配慮しており、利用者から寄せられた意見や提案等については朝礼・終礼時に即座にスタッフ間で話し合い、情報を共有するとともに即座に検討・対応を実施した。

▼常設で「ご意見箱」を設置しており、回答も速やかに書面で貼り出し、苦情や要望を寄せていただいた方に寄り添った適切な対応を実施をしている。

▼施設の設備や備品に関する要望については、公平公正な利用が図れるよう出来る限り予算を使い、利用者に不便や不都合が無いように配慮した。
また、サークル懇談会を実施して、様々な要望や改善事項を話し合い、利用者が公平になおかつ快適に使えるように配慮した。

▼利用者アンケートで記された施設改善の要望については、内容の精査や札幌市への報告相談を実施した。また、改善が必要なものは、今後も札幌市関係部局とも協議を行いながら進めていく。

▼職員間での情報の共有と意識の共有を常に意識をしながら、利用者にとって意見を述べることで、利用者として不利にならないよう最大限配慮をすることができた。

▼センター職員と利用者の関係は、上下関係のない対等な関係を常に意識し、利用者の思いを優先し真摯かつ適切に実施をした。

▼苦情や要望について、過去に寄せられた事例などを今後の対応に活かすため、職員間の研修の課題として積極的に取り上げること、話し合いを深めることができた。

▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)

▼日々の報告事項は「業務日報」「施設管理点検票(日報)」「外縁緑地管理日報」「清掃日報」を作成、保存して管理している。

▼浴場管理は浴槽内の残留塩素値および薬注ポンプ設定、浴槽の湯温も日々管理表を作成し保存している。

▼2月に定例の利用者アンケートを実施。結果をまとめ、スタッフ全員で共有し館内掲示を行っている。

▼セルフモニタリングを適宜行い、職員間での意識の向上や業務改善、利用者へのサービス向上に努めた。

▼札幌市への報告書は定められた形を遵守し、早期の提出を行うようにした。また、実地検査でも指摘事項はなかった。
札幌市手稲老人福祉センター管理業務等仕様書により以下のものを整備記録を行った

・業務日誌 ・管理業務に関する諸規定 ・文書管理簿
・事業計画書・事業報告書・収支予算書 ・収支決算書
・金銭出納簿 ・物品受払簿 ・備品台帳

▼浴室の管理については、保健所の仕様に基づき適切に実施をすることができた。

▼日々の管理記録の保管も問題なく実施した。

▼利用者アンケートで総合評価も一定の水準を保っていることを職員全員で確認し共有することができた。

▼札幌市等関係機関への報告は速やかに行った。

(2)労働関係 法令遵守、 雇用環境維 持向上	▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無などの安全衛生面を含む) ▼施設で働く職員の時間外労働・休日労働に関して労使協定(36協定)を定め労働基準監督署に届け出を行い、法令順守に努めた。 ▼時間外労働が必要な場合、事前に館長への申し出を行うとともに正確に残業時間の記録を行い、法定割合の賃金支払いを実施した。 ▼ワークライフバランスの観点から、毎月前月に”職員の希望による休みが取れる”が基本の勤務予定表を作成し、個々の事情に配慮した「完全週休2日制」を実施した。 ▼全ての労働者を労災保険に、条件を満たす労働者を雇用保険・社会保険に加入。 ▼有給休暇の取得率を上げる様に積極的に取り組み、次年度への繰り越しがほとんど無いよう奨励した。また、連続休暇が希望時に取得できるよう配慮した。 ▼指定管理者の申し込みに提出をしたワーク・ライフ・バランスの取り組みに関して、職員の個々の働きがいや生きがいを尊重する働き方を推奨した。 ▼労働者の勤務形態、家族状況等に応じて年金保険、健康保険に適切に加入させた。また、必要に応じて適切に届け出等を行った。 ▼雇入れ時すべての方に健康診断を実施し、職員の健康管理に配慮した。 ▼年に1～2回の全職員対象の個人面談を館長・副館長が行い、身体的・精神的な困りごとや働くうえでの役割やその個人が無理なく最大限力が発揮できることを目標として、健康で仲間に馴染んで楽しみながら仕事が出来よう配慮した。 ▼1年に1回定期健康診断を実施し、組織が依頼している産業医のアドバイスを受け入れ再検査等も積極的に行った。 ▼障がい者雇用、生活保護受給者の就労ボランティアも積極的に受け入れ働きたい人は誰でも働ける環境に近づけている。 ▼札幌市の事業である就労ボランティア体験事業から、当センターでのボランティアを経て本人の希望であった当館職員として今年度正式採用した。	▼管理者以外の残業はなし。また職員のワークライフバランスを考慮した出勤体制を組み、入院や家族の介護などによる長期休職の場合でも、復職して働き続けやすいバックアップ体制を整えることができた。 ▼労働者協同組合ワークスコープは、働きたい人は、誰もが働ける社会を目指している。その基本的指針に沿った雇用を受け入れ、ワークシェアリングの考え方を取り入れた人員配置にも努力している。 ▼年に一度の健康診断の受診は100%実施をし、再検査や産業医によるアドバイスによる健康管理を組織を挙げて積極的に取りむことができた。 ▼有給休暇の取得率は100%には至っていないが、夏季休暇、連続休暇、介護や子守休暇などそれぞれ働く人の事情に合わせた取得を進ませることができ、怪我や病気で有給休暇を取得する者は0%になった。また、職員全員3日以上連続休暇を取得している。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">▼関係法令を遵守するとともに、ワークライフバランスを考慮し、職員が就業しやすい環境の整備に努めている。</td></tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	▼関係法令を遵守するとともに、ワークライフバランスを考慮し、職員が就業しやすい環境の整備に努めている。							
A	B	C	D												
▼関係法令を遵守するとともに、ワークライフバランスを考慮し、職員が就業しやすい環境の整備に努めている。															
(3)施設・設備等の維持 管理業務	▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入) ▼利用者の安全確保について入管時の不審者のチェックを最大限意識をして、利用登録カードの提示を来館利用者全てに求めた。また館内・館外ともに事務スタッフ・清掃スタッフが適宜巡回・チェックし、利用者の安全状況を確認している。 ▼浴室の安全対策として、入出の状況をチェックして気がかりな利用者は、一人での入浴にならないように職員・利用者が協力して確認をし安全を確保している。衛生対策では配管の徹底洗浄等のレジオネラ菌対策を実施することで感染症対策の安全の確保をしている。	▼冬期間の除雪や路面凍結などの危険に配慮した、砂まきや出入口付近に積まれた市道の雪山を低くすることで見通しの良さなどを配慮し、利用者の交通安全に努めた。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">▼冬期間における利用者の安全を確保するため除雪や砂まきなどを実施している。</td></tr> <tr> <td colspan="4">▼利用者参加型の防災訓練を実施し、利用者を含め防災意識の強化に努めている。</td></tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	▼冬期間における利用者の安全を確保するため除雪や砂まきなどを実施している。				▼利用者参加型の防災訓練を実施し、利用者を含め防災意識の強化に努めている。			
A	B	C	D												
▼冬期間における利用者の安全を確保するため除雪や砂まきなどを実施している。															
▼利用者参加型の防災訓練を実施し、利用者を含め防災意識の強化に努めている。															

	▼スタッフ・保険・警備・施設・電気などの保守管理をしている関係機関等も緊急連絡体制を整備。適宜迅速な対応ができる体制を確保している。 ▼組織として、管理業務等仕様書の基準に準じた「賠償責任保険」に加入している。またセンター外のレクリエーションに対して行事ごとの保険にも加入して利用者の安心にもつなげている。また、卓球開放・運動系のサークルの利用者には、スポーツ保険の加入を各自に推奨している。 ▼拾得物取り扱いについては、「拾得物マニュアル」に従い適切に記録・保管し適切な対応をした。また利用者から申し出のあった遺失物については置き忘れた場所・特徴などを確認し、館内全域を職員で探すとともに、その結果を申告のあった利用者に伝えている。 ▼市民サービスの向上として、施設利用促進のための広報誌「あけぼの」を区民センター、地域公共施設に毎月届け、情報を周知した。 ▼手稲老人福祉センターの公式LINEをすでに開設しており、利用者には様々な情報をLINEを通じて届けられる体制を整えており、ホームページとの連動で、札幌市環境マネジメントに則り紙媒体での「あけぼの」の印刷物を減らしていく活動も行っている。 ▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等) ▼警備・施設保守点検・電気設備の保守点検・駐車場の除排雪は、第三者に業務委託を行い仕様書どおり実施をした。 ▼トイレ個室内からの緊急呼び出し設備について、作動の保守点検を行うとともに、緊急時の対応を事務スタッフ・清掃スタッフともすぐに駆け付けける体制は職員全員共有しており、利用者の安全安心につなげている。 ▼館内日常清掃・備品管理・修理修繕・駐車場管理・中庭管理業務については、職員が日々適切に遂行し、仕様書の要求水準通りに実施した。 ▼軽微な修理修繕は都度実施をし、職員で出来ることは全て対応をして経費をかけすぎない運営を心掛けた。 ▼花や野菜を育て緑化を促し、利用者が気持ちよく感じられる環境を整えるなど、特に美観の保守に努めた。 ▼表駐車場の一部スペースを再整備した「ろうふくガーデン」は、今年度も拡張してさらに多くの植物を植えて、来館者に親しんでもらうとともに環境整備に努めた。 ▼駐車場の利用については、事故の起きないように定期的に巡回・草刈り等を定期的に行い、安全で利用しやすい環境を整えた。 ▼備品管理は、消毒等の徹底、清潔整頓を心がけ、必要に応じて修繕をし、修理不可で購入が必要なものについては利用者に不備のない様適切に購入した。	▼裏手駐車場に入る市道は、降雪により車が埋まることが頻繁にあるので、職員による出入り口の確保や、段差の解消などの除雪を行った。また手稲区土木センターと頻繁に連絡を取り、利用者が困らないよう道路状況の正常化に努めることができた。 ▼利用者還元として、ロビーの休憩用テーブルの入れ替えを昨年に引き続き行い、憩いの場として利便性向上を行うことができた。 ▼警備・施設保守・除雪業務の専門性の高い業務は第三者委託を行い、適切に実施した。 ▼その他備品等維持管理業務については、清潔で整理された状態を維持できるよう心がけ、必要備品を都度購入した。 ▼施設の美観と安らぎの持てるエリアとして「ろうふくガーデン」は今年度も拡張され様々な花や植物を今年も多くの人に楽しんでもらえた。
--	---	--

	▽ 防災 ▼防災計画を策定し、特に防災訓練の際にはそれぞれの担当する役割や誘導路・注意事項について職員全員で共有した。 ▼火災や地震を想定したセンター来館中の安全確保について、利用者が中心の防火訓練・防災訓練を実施した。 ・防災避難訓練／通報訓練 避難誘導訓練(6/7に実施) 参加者 73名 ・防災講話「災害や危機に備えて～地震・風水害・土砂災害など～」参加者 44名 ・火災避難訓練(3/21に実施) 参加者 39名 ・防火講習動画上映「高齢者住宅の防火対策について・消火器の使用方法について」 ・その他 消防署や防火協会などが主催する訓練や、自主防火訓練、各種WEB研修 ▼AEDはバッテリーの使用期限、通電ランプの確認等を点検し、常に有事を意識した備えを行った。	▼防災計画が策定されており、職員の役割や注意確認事項などを今年度も再び共有した。 ▼利用者参加型の訓練を実施し、利用者、職員とも防災意識を高めた。 ▼防災協会のAED研修、組織内のBCP研修に参加をし、BCP事業継続計画も作成し、職員の知識やスキルを磨くことができた。																																																																																					
(4) 事業の計画・実施業務	▽ 生活相談等に関する業務 ▼専門家相談事業開催回数:16回(目標8回) <table border="1"> <thead> <tr> <th>相談事業タイトル</th><th>定員</th><th>申込数</th><th>%</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高齢者施設の種類・探し方</td><td>20</td><td>20</td><td>100.0%</td></tr> <tr> <td>チョコレートの世界</td><td>50</td><td>51</td><td>102.0%</td></tr> <tr> <td>介護予防センターと包括センターの説明と相談</td><td>25</td><td>26</td><td>104.0%</td></tr> <tr> <td>折れない心を育てる「いのち」の授業</td><td>60</td><td>50</td><td>83.3%</td></tr> <tr> <td>いきいき笑顔で暮らすためのコツ</td><td>20</td><td>20</td><td>100.0%</td></tr> <tr> <td>命を守る“水”を見直そう！水分補給について</td><td>50</td><td>37</td><td>74.0%</td></tr> <tr> <td>作業の数を減らさない!! 認知症・フレイル予防</td><td>24</td><td>25</td><td>104.2%</td></tr> <tr> <td>ACP(アドバンス・ケア・プランニング)～自身が希望する人生を大切にするために</td><td>20</td><td>10</td><td>50.0%</td></tr> <tr> <td>睡眠について～良い睡眠とは</td><td>35</td><td>38</td><td>108.6%</td></tr> <tr> <td>お菓の飲み合わせとポリファーマシー</td><td>30</td><td>19</td><td>63.3%</td></tr> <tr> <td>みんなで注意！特殊詐欺</td><td>30</td><td>28</td><td>93.3%</td></tr> <tr> <td>冬の転倒教室</td><td>40</td><td>40</td><td>100.0%</td></tr> <tr> <td>骨を元気に保つにはカルシウムの大切さについて</td><td>30</td><td>33</td><td>110.0%</td></tr> <tr> <td>生活に取り入れてみよう素敵なハーブの使い方</td><td>30</td><td>27</td><td>90.0%</td></tr> <tr> <td>食事と栄養から学ぶフレイル学</td><td>30</td><td>20</td><td>66.7%</td></tr> <tr> <td>骨粗しょう症について</td><td>30</td><td>23</td><td>76.7%</td></tr> </tbody> </table> ▼専門家等相談事業開催回数:16回 延べ人数:492人 (うち参加者が15人以上であった回数:12回) (令和6年度要求水準:年4回以上開催・各回参加者15人以上)	相談事業タイトル	定員	申込数	%	高齢者施設の種類・探し方	20	20	100.0%	チョコレートの世界	50	51	102.0%	介護予防センターと包括センターの説明と相談	25	26	104.0%	折れない心を育てる「いのち」の授業	60	50	83.3%	いきいき笑顔で暮らすためのコツ	20	20	100.0%	命を守る“水”を見直そう！水分補給について	50	37	74.0%	作業の数を減らさない!! 認知症・フレイル予防	24	25	104.2%	ACP(アドバンス・ケア・プランニング)～自身が希望する人生を大切にするために	20	10	50.0%	睡眠について～良い睡眠とは	35	38	108.6%	お菓の飲み合わせとポリファーマシー	30	19	63.3%	みんなで注意！特殊詐欺	30	28	93.3%	冬の転倒教室	40	40	100.0%	骨を元気に保つにはカルシウムの大切さについて	30	33	110.0%	生活に取り入れてみよう素敵なハーブの使い方	30	27	90.0%	食事と栄養から学ぶフレイル学	30	20	66.7%	骨粗しょう症について	30	23	76.7%	▼高齢者にとって気になる事が分かりやすく学べて尚且つ楽しい話になる事を目的に様々なプログラムを行った。 ▼数年前は、認知症の話や講話などは、中々人が集まりにくい印象であったが、コロナ禍以降は、自分ごとと考えて進んで参加される方が増えた印象である。 ▼ELC(エンド・オブ・ライフケア)協会の、終末期医療の専門医、小澤医師による「いのちの授業」は、土曜日の開催であったが利用者は満杯の大盛況だった。高齢者の方には身近な問題として認識され、学ぶことが多い講話とすることができた。 ▼専門家相談事業の要求水準は今年も大きく超えることが、できた。更なる内容をブラッシュアップして、多くの利用者に参加していただきたいと考えている。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>▼専門家相談や教養講座について、利用者のニーズに即した内容になるよう分析を行っている。</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>▼特に人気のある教養講座については、多くの利用者が参加できるよう工夫しており、高い満足度に繋がっている。</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>▼地域の方々と交流できる行事を多数開催し、高齢者の外出機会を促している。</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	▼専門家相談や教養講座について、利用者のニーズに即した内容になるよう分析を行っている。				▼特に人気のある教養講座については、多くの利用者が参加できるよう工夫しており、高い満足度に繋がっている。				▼地域の方々と交流できる行事を多数開催し、高齢者の外出機会を促している。			
相談事業タイトル	定員	申込数	%																																																																																				
高齢者施設の種類・探し方	20	20	100.0%																																																																																				
チョコレートの世界	50	51	102.0%																																																																																				
介護予防センターと包括センターの説明と相談	25	26	104.0%																																																																																				
折れない心を育てる「いのち」の授業	60	50	83.3%																																																																																				
いきいき笑顔で暮らすためのコツ	20	20	100.0%																																																																																				
命を守る“水”を見直そう！水分補給について	50	37	74.0%																																																																																				
作業の数を減らさない!! 認知症・フレイル予防	24	25	104.2%																																																																																				
ACP(アドバンス・ケア・プランニング)～自身が希望する人生を大切にするために	20	10	50.0%																																																																																				
睡眠について～良い睡眠とは	35	38	108.6%																																																																																				
お菓の飲み合わせとポリファーマシー	30	19	63.3%																																																																																				
みんなで注意！特殊詐欺	30	28	93.3%																																																																																				
冬の転倒教室	40	40	100.0%																																																																																				
骨を元気に保つにはカルシウムの大切さについて	30	33	110.0%																																																																																				
生活に取り入れてみよう素敵なハーブの使い方	30	27	90.0%																																																																																				
食事と栄養から学ぶフレイル学	30	20	66.7%																																																																																				
骨粗しょう症について	30	23	76.7%																																																																																				
A	B	C	D																																																																																				
▼専門家相談や教養講座について、利用者のニーズに即した内容になるよう分析を行っている。																																																																																							
▼特に人気のある教養講座については、多くの利用者が参加できるよう工夫しており、高い満足度に繋がっている。																																																																																							
▼地域の方々と交流できる行事を多数開催し、高齢者の外出機会を促している。																																																																																							

▽ 浴室業務

▼浴室利用人数：総数 3,493人(計画 2,160人)
 男性利用者:1,987人 女性利用者:1,506人
 浴室開催日:153日 1日利用平均:22.8人

▼利用促進のため、サークル懇談会での利用を促すようお願いや新規利用登録に利用者が来られた場合も施設見学を兼ねて利用促進のため利用推奨した。

▼感染病予防の観点から、脱衣室内・浴室洗い場の混雑などを考慮して、一度に6名以上の利用にならないように配慮し、利用者にも理解をいただき運用した。

▼開催日には、徹底した清掃、塩素濃度の定時測定を記録、特に温度調節は慎重に行った。

▼入浴前に、体調不良が疑われる利用者には、積極的に声がけを行い、事故が起こらないよう職員で見守り、未然に事故を防ぐ対応策について職員で共有した。

▽ 教育講座に関する相談業務

▼教養講座については、6か月もしくは1年の期間で開催されるものが多く、全て初心者向けの講座としているためゆっくりと無理なく長時間をかけて学べる説明をしている。

▼講座によっては、思っていた以上に難しかったり、イメージしていたものと違う場合は途中での退会は認めているが、退会の申し出があった場合は丁寧にその理由を聞き取り、次の講座の内容に反映させるなど、利用者が本当にやりたい内容を充実されるように努めている。

▼興味があるが、どのような講座、どのような作品を作るかなどは、定員制講座を募集している際に、講座受講生の作品展示を行って、講座に対するイメージと申し込みのきっかけを後押ししている。

▼運動系の講座の場合、基礎体力が必要な講座もあるため、1年に2度体力測定会を行い、そのデータをもとに客観的に講座への参加を呼び掛けている。無理をして途中で退会するより、その利用者に合った講座を的確にアドバイスしながら参加を促している。

▽ 交流促進に係る業務

▼近隣保育園との交流事業は、お祭りと神輿巡回交流、芋ほり交流、よさこい&太鼓披露を今年度も行い、保育園児、保育園児父母・祖父母、保育園職員との交流は地域交流の定例行事として定着している。

▼手稲駅前のフラワーロードのボランティア美化活動は、10年以上の活動を続けており、札幌市より花壇美化活動の表彰も受けた実績がある。活動の際に地域住民との交流や、近隣の保育園児との交流もあり、ボランティアとして参加される方も楽しめる交流活動となっている。また、水栓をお借りしている駅前郵便局との交流も続けている。

▼近隣医療機関への、ボランティア演奏会(ピアノ・ウクレレ)は毎月定例行事で行い、入院患者さんへの入院中のお楽しみ行事として今年度も行った。

▼カルチャーナイト・ろうふく秋祭り・サークル発表会・音楽コンサート・作品展示会は、地域交流事業として多世代の参加できる行事として開催をして例年通り多くの参加者でにぎわった。

▼近隣医療機関での、畑づくりボランティアとして今年度も参加して、子ども食堂や地域食堂に使われる野菜作りに今年度も参加をした。

▼近隣保育園には、一芸ボランティア(読み聞かせ・花のお世話・ウクレレ演奏)での交流も行い、子供たちとの交流を行った。

▼医療的ケア児をサポートしている医療機関と、「フラダンス交流」を行い、利用者と子どもとの交流、医療的ケア児への理解促進の行事として今年度初めて開催したが、とても好評な行事であったので、次年度も計画している。

▼2年前に、近隣の温泉施設が閉所したこと、相対的に利用者は戻ってきていること、近年の物価高の中、低廉な価格で入浴できることが再認識され以前より大幅に利用者が増えてきている。

▼湯抜き・清掃・消毒は丁寧に行うことにより、利用者からは「きれいなお風呂」として感謝されることに繋がった。今後も多くの利用者を迎えたい。

▼教養講座は、老人福祉センターの最も人気があり、参加希望者が多い講座で、受講期間も長い。利用者には自分に一番合った講座に参加するように示しており、利用者の趣味の幅が広がるなどの成果があった。

▼毎年同じ利用者が同じ講座を受講して、新しい参加希望者が入れないような状況は、平等利用の原則から良くないため、当センターでは一度受講した講座は一定期間再び受講できないようにしていることから、より多くの利用者の要望に応じることができた。

▼近隣の保育園、医療機関との交流事業により、ボランティア参加・相互施設訪問が年々活発になっている。

▼高齢者・保育園児、学生等との多世代交流を積極的に取り入れたことは、相互理解や共生社会構築への取り組みの一つであると考えている。

▼近隣保育園への読み聞かせ等の「一芸ボランティア」へ当センターの利用者が多数参加されており、地域に暮らす高齢者の社会参加・生き甲斐づくりへと繋がっている。

▼近隣町内会・老人クラブ・社会福祉協議会・福まちのお祭りや行事の際に、ウクレレ演奏でボランティア活動を行った。

▼老人福祉センターの施設内の緑化を積極的に進め、「ろうふくガーデン」として、訪れる方どなたにも開放しており地域の憩いの場としても提供も行っている。

▼近隣の鉄北小学校との交流事業として施設見学を毎年受け入れており、施設の意義や利用者への理解促進を行った。

▼北海道科学大学看護学部とは、高齢者理解のための施設実習として受け入れを行っており、学生には様々な行事への参加や交流行事も行った。

▼札幌市立大学とも、実習施設としての受け入れと、「思い出語りプロジェクト」を札幌市立大学と共同研究プロジェクトとして実施している。

▼北海道科学大学看護学部の実習の際、交流行事で行った”モルック”は、大人気で今後もセンターの行事として続ける予定である。

▼札幌市立大学と共同で行っている「思い出語りプロジェクト」は、人は自分の事や、若かりし日の事を思い出し語ることによって、“楽しい思い出が蘇り元気になっていく”事が成果として表れている。

▽ 教養講座の開講に関する業務

▼講座を「介護予防活動」「新たなやりがい・いきがいくくり」のきっかけと位置づけ、新規の講座を積極的に企画し、利用者が関心を持つ新規講座を実施した。

▼既存利用者の高齢化に伴う年代毎の変化に合わせた講座を実施することで、体験の機会を増やし、選択肢の増加、積極参加を促した。

▼体操・運動プログラムの短期講座・単発講座などを充実させ、楽しみながら参加できるプログラムを提供した。

▼月2回以上開催する健康増進に関する講座
:7講座(要求水準4講座)

▼月2回以上開催する教養向上に関する講座
:10講座

合計17講座(要求水準10講座)

▼(うち定員の70%以上申込みがあった講座:定員制講座17講座中、15講座すべてで70%以上の申込みがあった。)

▼教養講座に関する満足度(アンケート結果)
要求水準:80%以上 結果:87.9% だった。

▼講座の申し込みは、2講座を除き申込率はほぼ100%以上となった。

▼ウォームシェアの観点を考慮した、10月～3月までの短期運動講座を多数企画し、多くの方に参加してもらうことができた。

▼利用者の間でも年齢差や体力差はあるので、考慮しながら講座の準備をすることができた。

▼自由参加講座は、参加人数が多い講座を、登録や予約制として密を避け開催することができた。

▼要求水準は大きく超えることができたが、より利用者が望む講座の開設が出来るよう、情報収集等は1年中行っている。

講座名	定員数	申込数	%
パッチワーク・マルチなキルトづくり	8	21	263%
初心者水彩・絵手紙	16	8	50%
J-POP de コーラス	22	50	227%
はじめての編み物	16	22	138%
お習字のキホン	12	17	142%
ボールペン字 ～基本から応用まで～	16	29	181%
たのしい英会話教室 ～英検めざして!～	12	29	242%
かんたん!ミニミニ菜園	20	31	155%
たのしいレザー工芸	12	12	100%
はじめてのお茶道	6	6	100%
ゆったり椅子ヨガ ※1	24	30	125%
みんなで楽しむ太極拳	25	26	104%
太極拳の基礎	25	14	56%
若返り体操	30	69	230%
ぽかぽか温活 ※1	26	31	119%
ミュージックステップ	25	44	176%
卓球を楽しもう! ※1	20	29	145%

※1 前期・後期で2クール実施

▼自由参加および登録制講座 全14講座

- ・舞踊・ヨガⅠ・Ⅱ・ゆつくりストレッチ体操
- ・入門太極拳ダンスエアロ・脳スッキリ体操・詩吟
- ・社交ダンス・ボクシングエクササイズ・フラダンス
- ・民謡・カラオケ・ふまねっと・おきがる体操

▽ レクリエーション、各種行事の開催等に関する業務

▼季節行事やイベントに参加してもらう事で、楽しみを見つけてセンターの定期的な継続利用を促進した。

▼冬期間は、運動防足・ストレス解消・自宅への引きこもり予防を目的とした行事やレクリエーションを実施した。

▼館外にも出かける行事を増やすことで、視野を広げセンターの中で行われる講座・サークル・行事以外での楽しみを見つけ、友人作りや外出機会を促す活動を行った。

▼実施内容

- ・フラワーボランティア(5～10月/毎週木曜日)
- ・花植・ゴミ拾い・清掃・ていね夏あかり 各種ボランティア
- ・映画観賞会
- ・遠足
- ・カルチャーナイト
- ・曙保育園お神輿披露
- ・ろうふく秋まつり
- ・サークル発表会
- ・作品展示会
- ・音楽鑑賞会
- ・山王幼稚園太鼓演奏会
- ・ボールdeウォーク
- ・音楽と体操を楽しむ会
- ・フラダンスイベント
- ・歌をみんなで歌う＝歌いま唱歌・たまうた
- ・お茶を飲みながらのサロン＝お茶の間ぬくぬく
- ・囲碁将棋、卓球、読書

参加者数10,448人(目標10,000人)

▼定員をもうけているもののうち定員の70%以上の申し込みがあったもの:17/21回 だった。

▼レクリエーション行事に関する満足度(アンケート)
目標:80%以上 結果:89.4% だった。

▽ 高齢者の活動支援及び地域開放に関する業務

▼センター運営のスローガンである「利用者を主体者に」を実現するため、サークル代表者(世話人)・参加者をサポートして利用者の主体的な活動を促進した。

▼講座受講の終了したタイミングで新規のサークルを立ち上げていけるよう具体的に利用できる部屋の情報や活動に当たったの詳細を丁寧にしながら立ち上げ支援を行った。

▼サークル活動で行っている演技や特技を活かしたセンター以外での地域での活動を促進させた。

▼サークル懇談会を2回開催し、代表者に集ってもらい、活動を継続していく目的で、意見や要望を聞き、どのサークルも平等に利用できることに配慮した。

▼サークル主催の「サークル発表会」を開催し、日頃の活動の成果を披露していただくとともに、利用者同士・地域の住民との交流を行った。

▼センター内外でのボランティア活動の参加メニューを増やし、社会参加とやりがいの感じられる活動を促進した。

▼舞踊の参加者減ってきて継続していけるか心配していたが、新しい男性の参加者も加わり少しづつ以前の活気が戻りつつある。

▼遠足・カルチャーナイト・映画観賞会・音楽鑑賞会等々多くの行事を、毎月必ず数種類を行い、多くの方々に参加してもらえるように工夫をした。

▼過去に実施した講座や行事等について、センターへ来られない利用者の為、写真や映像をホームページ上に公開し、いつでも観てもらえるよう工夫を講じ、利用者のサービス向上に努めた。

▼地域開放交流行事として、曙保育園お神輿披露・ていね夏あかり・カルチャーナイト・ろうふく秋まつり・音楽鑑賞会・山王幼稚園太鼓演奏会・フラダンス交流イベント等々、地域の方々と一緒に参加して楽しんでもらう行事を多数開催し、施設と高齢者に理解を深める交流を実施した。

▼高齢者による講座・サークル・行事への主体的な取り組みを積極的に支援し、参加者増につながった。

▼サークル懇談会で話し合われた議案や提案事項は、後日館内掲示で全体に情報共有ができています。

	▼2024年度活動サークル 44サークル ・パソコン(10サークル)・リズム体操(4グループ) ・社交ダンス・楽しくハンドメイド ・パッチワーク(3サークル)・抹茶(2サークル) ・あみもの(3サークル)・日本舞踊・着付け(3サークル) ・皮革工芸(2サークル)・百人一首・ペン習字 ・絵手紙・ハーモニカ・大正琴・民謡踊り(2サークル) ・フラダンス・劇団・木彫・英会話・川柳 ・自主運動グループテイクテン・ウクレレ・小物づくり ▼サークル年間総利用者数 6,945人 (目標:6,500人) だった。 ▽ その他設置目的に関する業務 ▼介護予防に関する情報収集及び提供業務を行った。 ・脳トレサロン ・ビデオ体操(他行事と同時開催も含む) ・生活健康講話(等) ・医療講話(等) ・イムス元気運動教室 ・イムスストレッチアクティブ運動 ・体力測定会 ・運動機能記録会 ・ミニレクリエーション ▼講演・運動等事業開催回数:84回 延べ人数:1,571名参加 (目標1,000名) ・参加者が20人以上であった回数:37回 ・令和6年度要求水準:年30回以上開催・各回参加者20人以上 ▼北海道科学大学・札幌市立大学・鉄北小学校の見学実習を受け入れ、施設の設置目的を理解してもらい、学生との交流を行うことで高齢者の意識を高揚させ積極的に活動を行う意識付けを行った。	▼サークルの新規立ち上げ希望者への支援、既存サークルの活動継続にも取り組んでおり、年間参加者数にも反映されている。 ▼実施は、参加募集人数を増やした結果、参加人数は、昨年度より約600名増となり、順調に予定した参加人数となっている。 ▼プログラムによっては1回あたりの参加人数を制限しているの で、実施回数を増やし、より多くの利用者にご利用いただけるよう配慮することができた。 ▼事前申込制としていたので、利用者の方にはご負担であったが、感染症に配慮しながら事故無く開催できた。 ▼学生との交流は、高齢者の方々は元気が楽しさがもらえるので喜んで参加される方が多かった。																																																																																																																				
(5)施設利用に関する業務	▽ 利用件数等 <table><tr><th></th><th>5年実績</th><th>R6年度計画</th><th>R6年度実績</th></tr><tr><td>全 体</td><td>28,404</td><td>30,500</td><td>31,951</td></tr><tr><td>新規登録者数</td><td>155</td><td>180</td><td>172</td></tr><tr><td>講 座</td><td>8,107</td><td>8,400</td><td>8,729</td></tr><tr><td>サークル活動</td><td>6,373</td><td>6,500</td><td>6,945</td></tr></table> <table><tr><th></th><th></th><th>R5年度実績</th><th>R6年度計画</th><th>R6年度実績</th></tr><tr><td rowspan="3">大広間</td><td>件数(件)</td><td>294</td><td>300</td><td>303</td></tr><tr><td>人数(人)</td><td>2542</td><td>3000</td><td>4013</td></tr><tr><td>稼働率(%)</td><td>42.6%</td><td>43%</td><td>44.0%</td></tr><tr><td rowspan="3">多目的室</td><td>件数(件)</td><td>481</td><td>500</td><td>507</td></tr><tr><td>人数(人)</td><td>10257</td><td>11000</td><td>11566</td></tr><tr><td>稼働率(%)</td><td>69.8%</td><td>70%</td><td>73.7%</td></tr><tr><td rowspan="3">教養講座室</td><td>件数(件)</td><td>307</td><td>300</td><td>293</td></tr><tr><td>人数(人)</td><td>3392</td><td>3400</td><td>3037</td></tr><tr><td>稼働率(%)</td><td>44.5%</td><td>50%</td><td>42.6%</td></tr><tr><td rowspan="3">職能訓練室1</td><td>件数(件)</td><td>343</td><td>350</td><td>343</td></tr><tr><td>人数(人)</td><td>2277</td><td>2300</td><td>2006</td></tr><tr><td>稼働率(%)</td><td>49.7%</td><td>52%</td><td>49.9%</td></tr><tr><td rowspan="3">職能訓練室2</td><td>件数(件)</td><td>142</td><td>150</td><td>131</td></tr><tr><td>人数(人)</td><td>651</td><td>680</td><td>681</td></tr><tr><td>稼働率(%)</td><td>20.7%</td><td>20%</td><td>19.0%</td></tr><tr><td rowspan="3">和室</td><td>件数(件)</td><td>99</td><td>100</td><td>96</td></tr><tr><td>人数(人)</td><td>401</td><td>450</td><td>503</td></tr><tr><td>稼働率(%)</td><td>14.4%</td><td>16%</td><td>14.0%</td></tr></table>		5年実績	R6年度計画	R6年度実績	全 体	28,404	30,500	31,951	新規登録者数	155	180	172	講 座	8,107	8,400	8,729	サークル活動	6,373	6,500	6,945			R5年度実績	R6年度計画	R6年度実績	大広間	件数(件)	294	300	303	人数(人)	2542	3000	4013	稼働率(%)	42.6%	43%	44.0%	多目的室	件数(件)	481	500	507	人数(人)	10257	11000	11566	稼働率(%)	69.8%	70%	73.7%	教養講座室	件数(件)	307	300	293	人数(人)	3392	3400	3037	稼働率(%)	44.5%	50%	42.6%	職能訓練室1	件数(件)	343	350	343	人数(人)	2277	2300	2006	稼働率(%)	49.7%	52%	49.9%	職能訓練室2	件数(件)	142	150	131	人数(人)	651	680	681	稼働率(%)	20.7%	20%	19.0%	和室	件数(件)	99	100	96	人数(人)	401	450	503	稼働率(%)	14.4%	16%	14.0%	▼全体の利用者数・新規登録者・講座受講者・サークル活動参加者も全て前年度より10%程度増えている。 ▼各部屋の稼働率の変動は上下あるが、職能訓練室2のように、パソコン関連のサークルの専用のような部屋に一部なっているの で、低い稼働率で留まっている部屋も見られる。今後の部屋の活用について検討していく。 ▼平日の各部屋の利用状況は、空きのない曜日・空きのない時間帯は多く見られるが、土日の利用は、主催の講座は行っていないので、卓球・囲碁将棋等の開放事業と一部土曜日のサークル活動だけになっており、全体の稼働率を下げている。土日の利用者を呼び込んでいく計画を検討していく。	<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td colspan="4">▼施設全体の利用者数や講座、サークル活動の参加者数は計画数を上回っており、新規登録者も前年度実績を上回っている。今後も利用者増に努めていただきたい。</td></tr><tr><td colspan="4">▼各部屋の利用人数について、大広間や多目的室、機能訓練室は前年度から増加しているため、今後の利用促進にも期待したい。</td></tr></table>	A	B	C	D	▼施設全体の利用者数や講座、サークル活動の参加者数は計画数を上回っており、新規登録者も前年度実績を上回っている。今後も利用者増に努めていただきたい。				▼各部屋の利用人数について、大広間や多目的室、機能訓練室は前年度から増加しているため、今後の利用促進にも期待したい。			
	5年実績	R6年度計画	R6年度実績																																																																																																																			
全 体	28,404	30,500	31,951																																																																																																																			
新規登録者数	155	180	172																																																																																																																			
講 座	8,107	8,400	8,729																																																																																																																			
サークル活動	6,373	6,500	6,945																																																																																																																			
		R5年度実績	R6年度計画	R6年度実績																																																																																																																		
大広間	件数(件)	294	300	303																																																																																																																		
	人数(人)	2542	3000	4013																																																																																																																		
	稼働率(%)	42.6%	43%	44.0%																																																																																																																		
多目的室	件数(件)	481	500	507																																																																																																																		
	人数(人)	10257	11000	11566																																																																																																																		
	稼働率(%)	69.8%	70%	73.7%																																																																																																																		
教養講座室	件数(件)	307	300	293																																																																																																																		
	人数(人)	3392	3400	3037																																																																																																																		
	稼働率(%)	44.5%	50%	42.6%																																																																																																																		
職能訓練室1	件数(件)	343	350	343																																																																																																																		
	人数(人)	2277	2300	2006																																																																																																																		
	稼働率(%)	49.7%	52%	49.9%																																																																																																																		
職能訓練室2	件数(件)	142	150	131																																																																																																																		
	人数(人)	651	680	681																																																																																																																		
	稼働率(%)	20.7%	20%	19.0%																																																																																																																		
和室	件数(件)	99	100	96																																																																																																																		
	人数(人)	401	450	503																																																																																																																		
	稼働率(%)	14.4%	16%	14.0%																																																																																																																		
A	B	C	D																																																																																																																			
▼施設全体の利用者数や講座、サークル活動の参加者数は計画数を上回っており、新規登録者も前年度実績を上回っている。今後も利用者増に努めていただきたい。																																																																																																																						
▼各部屋の利用人数について、大広間や多目的室、機能訓練室は前年度から増加しているため、今後の利用促進にも期待したい。																																																																																																																						

機能回復訓練室	件数(件)	690	700	688
	人数(人)	368	380	265
	稼働率(%)	100.0%	100%	100.0%
集会室	件数(件)	690	500	388
	人数(人)	171	250	237
	稼働率(%)	100.0%	100%	100.0%
機能訓練室	件数(件)	690	500	388
	人数(人)	161	380	799
	稼働率(%)	100.0%	100%	100.0%
娯楽室	件数(件)	284	300	287
	人数(人)	3427	3500	3596
	稼働率(%)	100.0%	100%	100.0%

▽ 不承認 0件、取消し 0件、減免 0件、還付 0件

▽ 利用促進の取組

▼利用者アンケート・講座・行事アンケートの結果を見て、利用者のニーズを把握し、多くの人の利用につなげるためのサービスや向上や改善を行った。

▼利用者とのコミュニケーションを積極的に取りながら、親しみを感じてもらいセンターへ通いやすい環境づくりに務めた。

▼公式LINEへの登録者を増やし(約500名登録中)情報提供のスピードアップを図り、利用者には好評だった。

▼職員での会議や研修を通じて、高齢者理解や寄り添い、苦情や意見に対しての丁寧な回答など職員間で、高齢者に対する平等な接し方について繰り返し情報を共有しながら常に気持ち良い対応が出来るように務めた。

▼2月に募集する定員制きっかけづくり講座は、募集周知のため、手稲区内近隣町内会への回覧を行い、新規利用者に興味を持って来てもらえるよう配慮をした。また、この講座の申し込みをオンラインで受付を行っており、遠方の方々に配慮した申し込み方法も行った。

▼手稲区民センター、近隣公共施設、児童館など、広報誌「あけぼの」や行事のポスターやチラシなどの配架を行った。

▼サークル活動積極的な推進のためのサポート(空いている部屋の積極的利用促進)および新規サークル活動の受入促進を積極的に行った。

▼運動不足気味の利用者へ気軽に参加できる運動促進を促し、行事への案内の告知を行い楽しさを伝え、センターの利用に慣れてもらうよう、特に新規登録者の方には配慮をした。その後推奨する活動(各種講座・サークル活動・ボランティア・地域交流活動など)に参加を促した。

▼各種実施しているアンケートで、多くのご意見や感想が多数寄せられるので、職員間ですぐに共有しながら、今後取り組むべき目標や課題の検討を行うことができた。

▼利用登録が済んでいる利用者には、継続利用ができるよう、目的を持った利用・やりがいの持てる利用を促した。

▼新規利用者には、来館され登録に来られた際に、館内の詳細案内・特色のある講座サークル活動の紹介・興味の持てる行事を説明して利用しやすい施設であることを説明して利用促進を図ることができた。

▼近隣町内会や、まちづくりセンターには直接行事案内や募集ポスターの配布など、細やかに地域への広報活動を行うことができた。

(6) 付随業務

▽ 広報業務

▼広報(「あけぼの」)を毎月1回、内容の充実を心掛け発行し、施設内外の掲示、隣接の公共施設などにも配付した。地域行事等のポスターの掲示依頼を必要に応じて行っている。また紙面からHPが直ぐに見られるように、二次元コードも掲載している。

▼「あけぼの」に掲載され参加者募集をしている講座や行事は、館内ポスターやチラシを配布し、「あけぼの」の小さな文字が読みにくい方にも配慮した館内広報にも力を入れた。

▼新規講座募集のチラシを講座募集の時期に合わせ、まちづくりセンターを通じて近隣の町内会に(約1500枚)回覧できるように配布した。

▼多世代交流事業や地域開放の大型行事・講座募集の時期に合わせ地域生活情報誌「ふりっばー」に参加者募集の告知を行った。

▼地域に回覧される「ふりっばー」に定員制講座募集や大型行事の告知等を掲載した結果、西区～中央区からの新規登録者の増加と、講座申し込みが増えた。

A B C D

▼仕様書に沿って適切に行われている。

▼公式SNSを活用した広報を行う等、時代に即した取組に努めるとともに、各種広報活動により、これまで以上の利用促進に努めている。

▼ウェブアクセシビリティの取組について遵守し、適切にホームページを管理している。

	▼当センターHPから、新規利用登録の書式フォーム等も掲載し、パソコンでの入力に対応しスムーズな新規登録が出来るように配慮している。 ▼SNS-LINEの公式ページの運用を継続しており、行事や講座などの申し込みの情報を利用者が直接届けられるようにしている。また、LINE登録を推奨しており、既に約500名の利用者の登録があり、利用者へ情報デジタル化の時代に合わせた情報提供の方法と、急遽講座や行事の休講やお伝えしたいことなどLINEを通じて即時に行えるようにしている。 ▼当センターのHPは、スマートフォンにも対応しており、「あけぼの」のデジタル版の掲載、講座や行事の募集要項など、利用者が見やすく使いやすいをHPを心がけ、HPの月間アクセス数は約1000アクセスを超える月もあり、利用者に浸透している。 ▼年齢や障がい問わず、誰にとってもわかりやすく利用しやすいホームページの実現を目指し、ホームページのアクセシビリティの維持・向上、2016年3月22日に改正されたJISX8341-3:2016の適合レベルAAに準拠に努めている。 2025年3月にウェブアクセシビリティ評価試験を行い適合レベルAに準拠することに加え、適合レベルAAの達成基準を満たしている。 ▼当センターのHPには、利用者のセンターでの活動の様子が分かる情報を増やし、来館前に雰囲気が分かることを目的に、写真アーカイブや動画アーカイブでセンターでの活動の様子を見てもらえるページも開設している。	▼SNS-LINE・facebookの活用をはじめ、利用者へ時代に合った情報発信を行い、即時性と多くの情報へ容易にアクセス出来ることで好評を得ることができた。また、利用者間の情報格差が出ないように、紙媒体での告知や館内での掲示を継続し、丁寧な情報発信に努めた。 ▼ホームページの情報量を大幅に増やし、映像や動画での体験ページの充実を図るとともに、行事の振り返り映像や、講座内容の映像等々、スマートフォンが使える利用者から好評を得ており、センター独自の情報発信の強化に繋がった。 ▼ウェブアクセシビリティは、今年度も評価ツールにて試験を行い、適合レベルAAを準拠したホームページの改装を行った。
▽ 引継ぎ業務		
	指定管理業務継続期間中のため引継ぎ業務はなし	

2 自主事業その他															
▽ 自主事業	▼利用者の利便性向上のため飲料の自動販売機を設置し、販売価格を通常の自販機より低廉なものを導入するように工夫している。 (自主事業収入額は、後記の収支の欄を参照) ▼利用者の健康増進を目的として健康器具「スカイウェル」を設置。全身の血行が良くなる健康器具として大変人気があり安定的に利用されている。 ▼古紙回収ボックスを前年度より設置し、札幌市環境マネジメントシステムに則りリサイクル活動に積極的に取り組んでいる。また利用者の来館時の持ち込み、地域住民も身近にある回収ボックスとして広く利用されるようになった。	▼例年通り実施し、利用者への利便提供に努めることができた。 ▼2年前に設置した「スカイウェル」は、血行が良くなり体が楽になると利用者には人気で、この利用を目的に利用登録をして遠方からくる方も増えている。 ▼市の福祉施策を配慮して、市内企業で購入できるものは積極的に活用した。 ▼医療機関からの様々な医療情報やサービス情報は、情報弱者になりやすい高齢者にとってとても有益な情報となっている。	<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td colspan="4">▼仕様書に沿った運営を行っている。</td></tr><tr><td colspan="4">▼市内企業の活用や福祉施策に寄与する取組を実施している。</td></tr></table>	A	B	C	D	▼仕様書に沿った運営を行っている。				▼市内企業の活用や福祉施策に寄与する取組を実施している。			
A	B	C	D												
▼仕様書に沿った運営を行っている。															
▼市内企業の活用や福祉施策に寄与する取組を実施している。															
▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等	▼第三者委託業者は今年度全て札幌市内企業に委託した。 ▼清掃用品・消耗備品等札幌市内企業に発注をした。 ▼職員募集は、札幌市内ハローワークを通じて行くと同時に、札幌市内企業「ジョブキタ」を通じて求人情報を公開した。 ▼市内医療機関と業務提携を行い、様々な最新の医療情報やサービス情報の提供を受け、利用者の利便性を向上させた。 ▼札幌市内の社会福祉法人「さっぽろひかり福祉会」「障がい福祉サービス事業所 北愛館」「札幌市協働事業所 和氣藍々」などの授産製品の販売協力を行い利用者が集まる人気販売となっている。														

3 利用者の満足度				
▽ 利用者アンケートの結果				
	A	B	C	D
実施方法	▼実施期間 令和7年2月17日(月)～3月17日(月) ▼集計対象 当センター利用者 (講座・サークル・自主および開放事業・浴室・一般利用者) ▼実施方法 当該期間中、館内利用者に対してアンケートを説明、実施・回収した。行事やレクリエーション等は、毎回実施日にすぐにアンケートを取り集計をした。 ▼回収状況 配布数460部、回収は444部			
結果概要	▼例年より多い部数でアンケートを実施。結果、多数の貴重なご意見を頂いた。 ▼講座終了時・行事・レクリエーション等は、すべて終了後すぐにアンケート調査を行い、利用者に直ぐに記入してもらうことで、多くのご意見などを頂くことができた。 ▼全ての項目において目標を達成することができた。特に生活相談・レクリエーション行事などの評価が高かったことは、職員全員で力を入れてきている事なのでとても良かった。			
利用者からの意見・要望とその対応	▼例年よりアンケートの部数が多く、また、利用者満足度も全ての項目で目標を上回る内容となっている。 ▼特に生活相談やレクリエーション行事に関する満足度が高く、利用者数の増加に繋がっていることが伺える。 ▼利用者の意見や要望に向き合い、運営に反映するよう努めている。			
	▼総合的な満足度: 目標:80%、結果:83.3% ▼職員の接遇に関する満足度: 目標:80%、結果:83.0% ▼生活相談に関する満足度: 目標:80%、結果:88.5% ▼講演・運動等事業に関する満足度 目標:80%、結果:85.0% ▼教養講座に関する満足度 目標:80%、結果:87.9% ▼レクリエーション行事に関する満足度 目標:80%、結果:89.4% であり、全ての項目で今年度も要求基準を満たした。			
	▼アンケート・利用者懇談会・サークル懇談会をはじめ、各行事についてもお世話役、協力者の意見を取り入れながら迅速に対応できるようスタッフ一同心掛けています。 ▼代表的な要望と対応例 【要望】 運動をしている教室に温度計を付けてほしい 【対応】 体調管理の観点から、利用者にも目視しやすい温度計を設置する方向で検討している。 【要望】 多目的室のクーラーを直してほしい 【対応】 大規模な修繕は、すぐには難しいこともあり、スポットクーラーを2基設置するとともに、大型扇風機を設置している。修繕については、札幌市とも協議しながら進めていく。 【要望】 講座の時間を長くしてほしい 【対応】 講師都合等もあり対応が難しい。一部講座は講師とも相談し、開催回数・定員数を増やすなど、更に多くの方に参加機会を得ていただけるよう工夫していく。 【要望】 文化的な活動をしているサークルによる発表の機会がほしい。 【対応】 例年サークルから作品展や成果発表の要望があった場合は都度実施しており、来年度以降も更に積極的な発表の機会を設けていく。			
	▼利用者目線で、不備や不安があるところは早急に見直した。各種申し込みに対する要望、清掃や消毒の要望、施設設備に関する要望、SNSやスマートフォンなど時代に合わせた要望などそれぞれ職員間で話し合いを重ね、出来る限り丁寧に要望に対応することができた。			

4 収支状況

▽ 収支 (千円)

項目	R6年度計画	R6年度決算	差(決算-計画)
収入	47,439	49,517	2,078
指定管理業務収入	47,209	49,200	1,991
指定管理費	46,518	47,324	806
利用料金	558	704	146
その他	133	1,172	1,039
自主事業収入	230	317	87
支出	47,264	45,490	▲ 1,774
指定管理業務支出	47,104	45,380	▲ 1,724
自主事業支出	160	110	▲ 50
収入-支出	175	4,027	3,852
利益還元	50	280	230
法人税等	100	1,181	1,081
純利益	25	2,566	2,541

▽ 説明

▼札幌市立大学・北海道科学大学看護学部の学生実習依頼を最大限受入れた事で管理業務収入が増加。この他、浴室利用料金や、その他コピー代収入など利用料金704千円となり、計画を上回った。

▼エネルギー代が高騰していたが、節電・節エネルギーに努めたことに加え、札幌市から光熱補填もあり、指定管理費が増加した。

▼利用者還元は、ロビーに利用者が食べやすい高さの食事用テーブル3台・ボールウォークボール10セットその他(280千円)に使用した額である。

▼計画数字より、水道光熱費補填・利用料金収入(浴室利用料・コピー等々)その他(学生実習受け入れ)自主事業(自動販売機・スカイウェル利用料・資源回収ボックス)の利用がいずれも計画より大幅に増加し(2,078千円)最終の2,541千円の黒字の差額となった。

▼収入の指定管理料は、光熱費の補填で806千円、利用料金で146千円、その他収入で1,039千円のいずれも増収で合計2,078千円となった。

▼夏場の暑さや冬場の厳冬により冷風機や暖房の使用量は多かったが、電圧コンデンサー設置した事で料金は安定している。

▼利用者還元としてロビーで使用する食事用のテーブルを追加で購入し、利用者の利便性を図ることができた。

▼健康づくりや体力づくりの講座を今後積極的に行っていくため、ボールウォークボール10セットを購入し、利用者のサービス向上に努めた。

▼収入は計画を上回り、支出は計画より抑制することで、安定した運営を行っている。

▼今後も支出の抑制に努めるとともに、利用者の回復や利用者満足度向上に関する取り組みを積極的に行い、収支のバランスを図るよう努めていただきたい。

▼収益の一部については利用者への利益還元を実施している。

< 確認項目 > ※評価項目ではありません。			
▽ 安定経営能力の維持	▼労働協同組合ワーカーズコープ・センター事業団は、全国組織の「協同労働」組織であり、全国で多岐にわたる事業を展開しており、決算報告とおり経営は大変安定している。	▼今年度も安定した経営を行った。	適 不適
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応	▼個人情報保護については、労働協同組合ワーカーズコープ・センター事業団の「個人情報保護方針」及び「個人情報の保護に関する規定」に沿って適正に対応をしている。 ▼情報公開については、労働協同組合ワーカーズコープ・センター事業団が定めた情報公開の規定に従い、透明性の確保に努めている。2024年度、請求は0件であった。 ▼オンブズマンからの調査依頼は今年度もなかった。 ▼暴力団排除に関する条例に基づき適正に対応。暴力団および暴力団関係者と思われる方の施設の利用、契約はなかった。 ▼その他各条例の規定に則り、適切に対応した。	▼個人情報保護及び情報公開については、組織内での取り決めが明確で、組織全体として適切に運用をした。 ▼今年度も、情報公開請求及びオンブズマンからの調査依頼はなかった。	適 不適

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	次年度以降の重点取組事項
▼今年度も感染症の再蔓延がないよう意識しながら、スタッフ全員で常に慎重な運営について考え、情報を共有し様々な活動を安心・安全に開催し続けることができた。 ▼指定管理仕様書に基づいて、示された事業を期間内に安全に行うことができた。 ▼施設全体のトラブルは全体的に少なかったが、多目的室の空調設備・冷房設備の故障が重なり、利用頻度の高い室なので、指定管理者でできる緊急対策で利用はできているが、今後猛暑による温暖化が常態化すると少し心配である。 ▼介護予防活動については、感染症蔓延予防の観点から利用定員を少なくしていたものを少しずつ緩和をしている。「ふまねっと・脳トレサロン・イムス元気運動教室・イムスストレッチアクティブ運動・各種医療講話・生活健康講話・体力測定会」等参加者が多く盛況だった。 ▼講座について、新規の講座も開設し、広く興味を持って参加してもらうよう企画をした。定員制講座は申し込み率が高く抽選になることが多いため、自由参加講座も16講座開講し、基本的には自由参加としているが参加者が多いものについては、登録制を設け感染症蔓延対策をして実施をした。また、定員を設けているものについては、少しずつ利用定員を緩和した。 ▼サークル活動については、既存のサークルはほぼ活動の再開は出来ているが、モチベーションの維持やお世話係の高齢化など様々な問題で、活動自体を辞めてしまったサークルもいくつか見られたが、今年度は新たなサークルの立ち上げがいくつか見られ、世代交代も少しずつ行われている。今後もサークルの活動支援については、情報提供と共にやっていきたい。 ▼レクリエーション各種行事について、春・秋2回の遠足・音楽鑑賞会・映画観賞会・フラダンスイベント・札幌市公式カルチャーナイト・ろうふう秋まつり・クリスマスイベント・ボールdeウォーク等を開催し今年度は参加人数も増えてきた。またその様子をホームページ上で公開した。 ▼収支については、水道光熱費補填・利用料金収入(浴室利用料・コピー等々)その他(学生実習受け入れ)自主事業(自動販売機・スカイウェル利用料・資源回収ボックス)の利用がいずれも計画より大幅に増加し(2,078千円)最終の2,541千円の黒字の差額となった。	▼事業計画書をもとに、新しい講座・レクリエーション・行事・各種講話等々次年度も積極的に企画取り組みを行う。 ▼感染症を再び蔓延させないことを重要課題として、徹底した衛生管理を職員全員で取り組んでいく。 ▼教養講座・自主企画行事等アンケートの結果や日々の利用者との会話の中から利用者の要望にあったものを新たに取入れ企画していく。 ▼利用者の満足度が向上する施設の在り方について、利用者アンケートや普段の利用者との会話からさらなる改善を図っていく。 ▼老朽化した設備の修繕や改修、新たな必要備品の購入、壁紙やカーペット等も、利用者に気持ちよく館内を利用して頂くため、計画的に順次更新・購入をしていく。 ▼利用者全体が今後さらに高齢化していくことを踏まえ、それぞれの身体的状況の把握から、個別の身体状況に応じた講座や行事の開催、体力差による運動を取り入れた介護予防事業を更に充実させていく。 ▼高齢者の積極的な社会参加と生きがい・創出を充実させるため、様々なボランティア活動、センター外での活動、コミュニティへの参加・地域の居場所作りの活動を次年度も積極的に支援をしていく。 ▼施設スタッフのワークライフバランスを考え、働く環境をより良いものにしていくため、より積極的な有給休暇の取得100%を目指していく。 ▼職員全員コンプライアンス、環境意識、平等意識、防災意識、労働関係法令順守、高齢者理解等々の研修や学ぶ機会を積極的に増やしていく。 ▼公式LINEの登録者を増やすことで、スマホ等のデジタルデバイスを利用してもらう機会は増やし、簡単なスマホの使い方など、日々事務職員で対応しているが、デジタルデバイス難民になっている利用者も一方で見られるので、平等に施設を利用してもらう工夫を次年度も続けていく。
【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
▼施設の設置目的等に沿って適切に運営が行われているとともに、感染症対策のため設けた定員を少しずつ緩和することで各事業の参加者数や施設全体の利用者数が増加するなど、利用者のニーズに応じた施設管理が行われている。 ▼講座やレクリエーション各種行事について、参加者数が増加するよう企画を工夫しているところが評価できる。 ▼既存のサークルはほぼ活動を再開しており、新たなサークルの立ち上げなど世代交代も行われているため、施設全体の利用者の増加に繋がるよう、引き続き活動支援を期待したい。	